

障がい等地域支援ブロック会議報告(平成23年6月～平成23年10月)

月	参加機関数	事例検討	検討内容	意見	課題
	参加者数				
	担当機関名				
6	20	精神科救急システムで当院に緊急入院したケース	精神症状の治療と憎悪時に危機介入について 在宅支援の関係機関の連携について	精神科救急システムでの入院でのかかわりの中で、在宅生活での支援状況の確認を実施した。	
	23人				
	宇部市医師会				
7	20	職員に対する恋愛感情を持つ双極性感情障害の女性への対応について	利用者が特定の職員への恋愛感情を持った場合の対応 疾患の特性による介入方法はあるのか	対象となった職員は毅然とした態度をとることが必要。 医療機関との連携が必要。 施設だけで抱えるのは負担が大きく、他の機関や行政担当者とも連携していくことが必要。	
	24人				
	サポートセンターびっころ				
8	18	総合支援学校高等部卒業後、事業所を転々とするケースへの支援について	事業所に定着できるような支援方法について 家庭との連携のとり方 利用事業所との連携のとり方	関係機関、支援者同士のコマメな情報共有が必要。 家庭内のキーパーソンである母親と支援方針や対応方法を共有する。 利用事業所間の情報の引継ぎが大切。	事業所をやめた後のフォロー体制がない。 事業所が変わった際に前の事業所からの情報が得にくい。
	25人				
	ぷりずむ				
9	19	一般就労を希望し自ら就職活動をする利用者への支援について	一般就労するには現状でできていないことが多いが就労Bとしてすべき役割は何か 支援者が多く関わっている中での各機関の役割について	就労を目指すには、自分で遅刻しないで出勤することがまずは必要。 就労を目指すには、企業に近いルール作りと対応が必要。 指定相談があるが、情報の集約も不十分でキーパーソンが見えない。 再度情報の集約と関係機関同士の連携と役割を明確にする事が必要。	
	23人				
	いこい				
10	17	高機能自閉症のケアホーム入居者への対応について	他の入所者との良好な関係作りについて 就職、一人暮らしに向けた日常生活のスキルの習得について	本人に他人の気持ちが理解しづらい特性がある為、職員が相手の気持ちなどを分かるによきめ細かく対応することが必要。 特性を知って、本人にあった実際にできる方法を根気強く一緒に実施していくことが必要。	
	21人				
	光栄ホーム				